

シューベルティアーデ I

—— 芸術歌曲誕生 ——

2017年 7月23日(日) 開演 14:00 (開場 13:30)

和光音楽アカデミー 2階
マジョルカホール

入場料 3,000円



出演

堀 朋平 (ナビゲーター)

稲森 奈津子 (ソプラノ)

佐々木 洋平 (テノール)

榎元 圭 (ピアノ)

山本 佳代子 (ピアノ)

曲目

前半

「ひとの吐息と痛みが聴こえる」

《狩人の夕べの歌》 D368

《最初の喪失》 D226 他

後半

「水辺のシューベルティアーデ」

《湖上にて》 D543

《舟びと》 D694

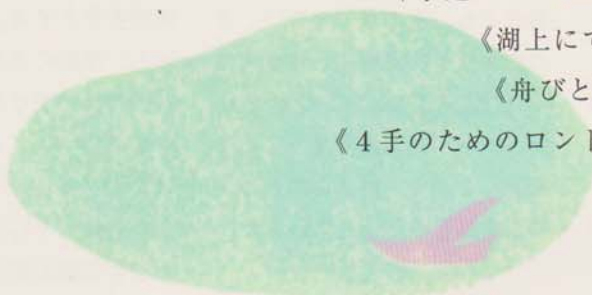
《4手のためのロンドイ長調》 D951 他

主催：Cloud of Arts

後援：梅光学院高等学校音楽科

東京芸術大学同声会福岡県支部

お問合せ：090-6405-1852 (やまもと)



シューベルティアード I

—— 芸術歌曲誕生 ——



堀 朋平

アーベーツェーもままならないのに、泣きながら交響曲《ザ・グレート》の本をドイツ語で読んだ1年生のゼミ——。あれから、この音楽は静かに自分の体と心に沁みこんでいきました。しかし、オーストリアの図書館をめぐり、博士号をとり、本まで出すことになるなんて、さすがに予想しませんでした（笑）

そして今や、こうして皆さんと生でシューベルトを楽しめる。ああ、なんという幸せでしょう！

堀 朋平（ナビゲーター）

国立音楽大学・西南学院大学ほか講師。2013年、東京大学大学院博士課程修了（文学博士）。専門は音楽美学。共著『バッハ キーワード事典』（2012年）。訳書にヒンリヒセン『フランツ・シューベルト』（2017年）、ハルム『フーガとソナタ』（共訳2017年）など。著書『〈フランツ・シューベルト〉の誕生——喪失と再生のオデュッセイ』（2016年）。研究・翻訳のほか、演奏家とのコラボも積極的に重ねている。



稲森 奈津子

ドイツリートの魅力に出会ったのは大学4年生の春。恩師からいただいたシューベルト歌曲集の音源を聴き、名歌手の手に取るようにわかる息遣いや、言葉と音を大事に紡ぐ繊細さと温かさに心動かされ、その世界に一気にのめり込んだことをよく覚えています。そこに共感している自分が、一つ大人になったようで嬉しくもありました。その時に感じた想いを、今回の企画に込められたらとても幸せです。



佐々木 洋平

ソルフェージュが苦手だった私を鍛えてくれたのは、大学入学時に師匠から与えられた最初の課題、シューベルトの「水車小屋の娘」全曲でした。それも一週間に5曲ずつということで、死に物狂いで勉強したのを覚えています。「重要なのは勉強の速さでも、その量でもない。その曲を知った状態で人生を重ねること。」またここで新しいシューベルトに出会えることに感謝しながら、堀さんのかける魔法を楽しみたいと思います。



榎元 圭

シューベルトの作品を初めて弾いたのは僕が小学生のとき、ピアノ独奏のための即興曲でした。ほんのわずかの差で光と闇を行き来する作品に、恐怖さえ感じたことを今でもはっきりと覚えています。そんな衝撃的な出会いから十数年、リートや室内楽を主とするようになってからも、感動のあまり演奏できないのではと思う作品の数々に魅せられつづけています。シューベルトの音楽といえばサロン。この空間、そしてこの企画で新たな世界観と出逢えることが楽しみです。



山本 佳代子

シューベルトの血液型はB型にちがいない、と、長大なソナタに途方に暮れていたころ、勝手にそう信じていました。リートを弾き始めたある時、O型である可能性が高いと読んで、実は私と相性がいいではないか！と、シューベルトに惹かれる一因がわかりました。もっともっと、好きになりたいというのが、このコンサートのキッカケです。